

(4) 課題の整理

ここでは、「JR海田市駅周辺の状況」、「上位・関連計画の整理」、及び「住民意向の把握」の結果を踏まえ、JR海田市駅周辺のバリアフリーに関する課題を整理する。

1) 高齢者・障害者等の人口増加に対応した福祉関連施設の充実

全国的な高齢化の進展に伴い、海田町においても高齢人口・高齢化率が年々増加しているとともに、障害者等の人口も急速な増加をみせている。今後、ますます高齢者・障害者等の人口が増加することが予測されるため、福祉関連施設のより一層の充実が望まれる。

2) 利便性・快適性向上のための公共交通のバリアフリー整備

バスの低床車両導入率は1割と低く、JRについても改札口からホームへの昇降機が未設置であるなど、公共交通のバリアフリー化はあまり進展していない。ヒアリング調査等から、日常的に公共交通を利用する高齢者・障害者等が多いことがわかっており、今後は公共交通のバリアフリー整備により、高齢者や障害者等の利便性や快適性を高めていくことが望まれる。

3) 歩道等の道路施設の連続性に配慮したバリアフリー整備

歩道は、JR海田市駅南側の幹線道路を中心として、設置されている区間は多いが、狭幅員箇所や段差がみられるなど課題は多い。点字ブロックや音響信号は部分的に設置されているものの、連続性がなく、その効果が十分に発揮されていない。今後は、バリアフリーに対応した連続性のある歩行者空間の整備を行っていく必要がある。

4) 主要公共施設・日常利用の多い民間施設のバリアフリー整備

町内の主要公共施設では、廊下等の移動やトイレなどについてはバリアフリーの水準を概ね満たしているが、駐車スペースや昇降機、案内板などについてはバリアフリー対応となっていない施設が多い。今後は、主要公共施設のバリアフリー化を進めるとともに、日常利用の多い民間施設についてもバリアフリー化が求められる。

5) バリアフリーに対する町民意識の醸成

バリアフリーのまちづくりを実現するためには、ハード面の施設整備だけでなく、町民一人ひとりが助けあいの精神を持つ環境づくりを行うことが必要である。このためには、ソフト面の取り組みを通じて、町民一人ひとりがバリアフリーについて理解を深めるとともに、ボランティア意識を醸成し、誰もが高齢者や障害者等に対して優しくサポートできる「心のバリアフリー」の社会を実現していく必要がある。